

11500-1
Ex 148
警類第一一五〇〇號

極東國際軍事裁判所

亞米利加合衆國及び其ノ他ノ諸國

對

矢 越 書

荒木貞夫及び其ノ他ノ者

一 前田多門ハ宣誓ヲナシ次ノ如ク申立ツ。

私ハ職業ハ新聞ノ社説擔任記者デ、

又曾テハ東京市助役、壽府國際勞働局幹部ノ一員

ソレカラ千九百四十五年（昭和二十年）八月十八

日カラ千九百四十六年（昭和二十一年）一月十三

日迄文部大臣ヲシマシタ。千九百二十八年（昭和

三年）乃至千九百三十八年（昭和十三年）ノ間ハ

東京朝日新聞ノ社説擔任記者デシタ。軍部ナリ日

本政府ナリガ滿洲事變ヲ豫期シテ、新聞ヲ通ジ何

カ宣傳ヲ始メル組織的ナ計畫ガ千九百二十八年（

昭和三年）ニアツタ様ナ記憶ハアリマセン。

千九百二十六年（昭和元年）千九百二十七年（昭

和二年）及び千九百二十八年（昭和三年）ヲ通ジ

テ日本ノ一般ノ空氣ハ緊張シテキマシタ。軍國主

義的ナ進中トカ極端ナ國粹主義的ナ進中ガ、此ノ

間ニ於ケル財政方面ノ弱態ヤ日本ノ弱態ヲ、官民

ノ餘リニモ自由主義的ナ傾向ノセイニシタノデス。

新聞人トシマシテ、又此ノ間ノ政府ノ政策ニ對スル知識ヲ有スル者トシマシテ、私ハ日中内閣ハ滿洲ニ關シテモツト攻勢的ナ政策ヲ取ル目的ヲ出奈タコトハ承知シテキマス。千九百三十年（昭和五年）カラ、政府ハ新聞ヲ通ジテ、滿洲ハ日本ノ生命線デアリ、滿洲ニ關シテハモツト強硬ナ政策ヲ取ラナケレバナラスト云フ思想ヲ日本ニ築キ上ゲル爲ニ宣傳ヲヤリマシタ。而シテ、政府ノ訓令ニ從ヒマシテ、社説擔任記者トカ極端ナ國粹的ナ論者トカ著者ハ皆滿洲ニオキマシテモツト攻勢的行動ヲトル様ニト云フ輿論ヲ築ク爲ニ一致協力致シマシタ。此ノ政策ノ當初ニオキマシテハ、政府ハ此ノ政策ニ反對スル新聞抑壓ノ明確ナ方法ヲ取ルト云フヨリハ、寧ロ同政策ヲ唱道スル新聞・學者・論者等ヲ歡迎スルト云フトコロデシタ。之ハ誠ニ手際ヨリ漸次行ハレマシタ。千九百三十一年（昭和六年）一寸前ニ法規ノ施行機關ハ、此ノ政策ニ反對スル自由主義的著述者ヤ教師其ノ他ノ者ヲ抑壓スル爲、從前ヨリ嚴格ナ方法ヲ用ヒ、一方之ニ贊成スル者ハ極力獎勵シマシタ。

政府ヤ軍部ハ、新聞・出版者・著述家・論者其ノ他宣傳ヲ弘メ得ル、實ニアラユル機關ヲ通ジテ、滿洲ハ日本ノ生命線デアリ、日本ハ滿洲ニ手ヲ延

ベシ、經濟・産業兩面カラ之ヲ開發シテ、露西亞ニ對スル防禦國トシテ之ヲ建テナケレバナラナイノデアルトカ、又或ル條約上ノ權利カラシテ、日本ハ滿洲ヲ支配スル權利ガアルノダト主張シ、尙此ノ宣傳ノ外ニ、日露戰爭デハ、滿洲デ日本人ノ血ガ流サシタトカ、此ノ犠牲カラシテモ日本ハ滿洲ヲ支配シ、其ノ成果ヲ擧ゲル權利ガアルノダト云フ、感情ニ訴ヘル性質ノ宣傳ヲイタシマシタ。

大川周明博士ハ、此ノ政策ニ賛意ヲ表シタ代表的著述者ノ一人デシテ、大川氏ノ政策ニ共鳴スル著述者ハ他ニ數多アリマシタ。大川氏ノ著述ハ何時モ日本ノ滿洲發展及ビ支配ヲ主張シテキマシタ。滿洲事變直後、政府ヤ軍部ハ、國內ノ批判ヲ相殺スル目的モアツテ、滿洲ニ於ケル日本ノ地位ノ名分ヲ立テル組織的ナ計畫ヲ始メマシタ。滿洲事變直後、陸軍省ハ、新聞及ビ社説ノ檢閲ヲ始メ、而シテ此ノ問題ニ關聯スル檢閲ノ法規ガアル許リデナク、陸軍省ノ氣ニ入ラス事ヲ何カ載セサウナ著述家ナリ新聞ナリヲ訪問シテ、其ノ様ナ論說ハ陸軍省ノ感心シナイコトダト、サウ云フ著述家トカ新聞ニ忠告ヲ與ヘタモノデス。政府ノ政策ヤ軍部ニ不利ト思ハレル事ヲ何デモ發表スル著述家或ハ新聞ノ編輯人ノ所ヘ、脅威ヲスル様ナ數多ノ暴力

國ヲ使ツテ、新聞や雑誌擔當記者ニ更に抑壓ノ期
 へマシタ。
 防共爲走が出来タ千九百三十六年（昭和十一年）
 頃、私ハ或ル會合デ講演タシ、此ノ防共協定ノ爲
 ニ日本ハ世界ノ他ノ部分カラ孤立シテシマツタノ
 ダト述べ、又自分ハ防共協定ニハ賛成出来ナイト
 云ツタノデシタ。此ノ講演ノ結果、陸軍中佐ダト
 云フ二人ノ將校、一人ハ陸軍省カラモウ一人ハ參
 謀本部カラデシタガ、ヤツテ來テ、ドチラモ日本
 大使館附、一人ガ伊太利陸在デ他ノ方ガ獨逸陸在、
 ダツタト云ツテ、私ガ防共協定不賛成ヲ述べタノ
 ハ氣ニクハナイト述べ、今後コノ様ナ問題ニ就イ
 テ誓イタリ話シタリスル時ハ、モット好意的ナ見
 方デヤツテ貰ヒタイト指示シテ行キマシタ。如實
 ノ脅威ガ私ニ對シテ爲サレタ譯デハアリマセンガ、
 さーべるヲガチヤガチヤサセタ所ナド、私ノ行動
 ヲ面白クナク思ツテキタ事ニハ間違アリツコアリ
 マセンデシタ。

私ハ千九百四十五年（昭和二十年）終戰直後、
 文部大臣ニナリマシタ。私ノ最初ノ公務上ノ行動
 ハ、非常ニ極端ナ國粹的ナ又軍國的ナ教科書ヲ學
 校カラ除去スル目的デ學校組織ヲ考察スルコトデ
 シタ。ソレデ新カル教科書ヲ破棄スル様ニ命令シ

マシタ。私ハ之等ノ教科書ヲ最後のニ再審査シテ、ソレガ極端ニ國粹的デアリ又軍國主義的デアルノヲ知リマシタ。リテテモ歴史、公民、地理ニ於テサウデシタ。ソコデ全學校長ニモツト自由主義的教育法ヲ採用シナケシバナラヌト訓令シマシタ。私ハ此ノ様ナ教科書ハ先ヅ第一ニ之ハ最モ感心セヌコトデスガ、日本ハ他ノ凡テノ國ヨリ優レタ國デアルト云フコトラ生徒ニ教ヘル爲ニ用ヒラレタト云フ理由デ、又モウ一ツハ神秘ヤ古傳ト事實ノ混同、軍事行動トカ戦争ヲ餘リニモ稱讃シタコト、軍人ニ對スル又國家ノ爲ノ個人ノ絶對服從ノ觀念ニ對スル過度ノ欽賞、崇拜ガアルノデ、斯カル教科書全部ノ破棄ヲ命ジマシタ。

既ニ述べマシタ理由カラ破棄ヲ命ジマシタ教科書ノ外ニ、教師ヤ學生ヤ一般人ニ廣ク讀マセルタメニ文部省カラ發行サレタ「國體ノ本義」之ハ千九百三十七年（昭和十二年）五月發行、ソレカラ千九百四十一年（昭和十六年）三月ニ發行サレタ「臣民ノ道」ガアリマシタ。

千九百四十五年（昭和二十年）^{昭和二十年}文部大臣トナリマスト同時ニシマシタ従前ノアルガマ、ノ日本ノ學校組織ノ考察ニヨリマシテ、支那事變以前ニ軍部ハ軍事教育及教練ヲ監督スル陸軍將校ヲ學校

ニ配属シ、アテニル學校ヲ御創シ、此ノ舞臺ハ支那事變後非常ニ窮乏ニナリ此ノ様ナ學校ヲ學校組織ノ課程ヲ管理ノ運営ニ送リマデモ學校長ニ指示スル機ニナリタトニテ實證ヲ得マシタ。

前 田 多 門

上記前田多門ハ千九百四十六年（昭和二十一年）

月 日陸軍省ビル内ニテ本官ノ面前ニテ宣誓ノ上本供述書ニ署名セリ。

證 明 書

予 ハ茲ニ左ノ如ク證明ス。予ハ日英兩國語ニ通曉シ且本日前記供述書ヲ上記前田多門ニ日本語ニテ讀ミ聞カセタリ。之ヲ爲スニ當リ予ハ前記供述書ノ内容ヲ英語ヨリ日本語ニ忠實且正確ニ翻譯セリ。右前田多門ハ該供述書ノ内容ガ眞實ナル旨並ニ該供述書ニ宣誓ノ上快ク署名スル旨述べタリ。右前田多門ハ予ノ面前ニテ正式ニ宣誓シ且該供述書ニ予ノ面前ニテ宣誓ノ上署名セリ。該宣誓ヲ爲シ且該供述書ニ署名スルニ就イテノ凡テノ手續ハ日本語ヨリ英語ニ又英語ヨリ日本語ニ忠實且正確ニ翻譯セラレ、右供述者ニヨリ充分理解且了解セラレタリ。

千九百四十六年（昭和二十一年） 月 日